




2023 年 12 月 1 日

## HeartCore Robo 管理ポータルユーザーガイド

作成：HeartCore Robo サポートチーム

ハートコア株式会社



## 目次

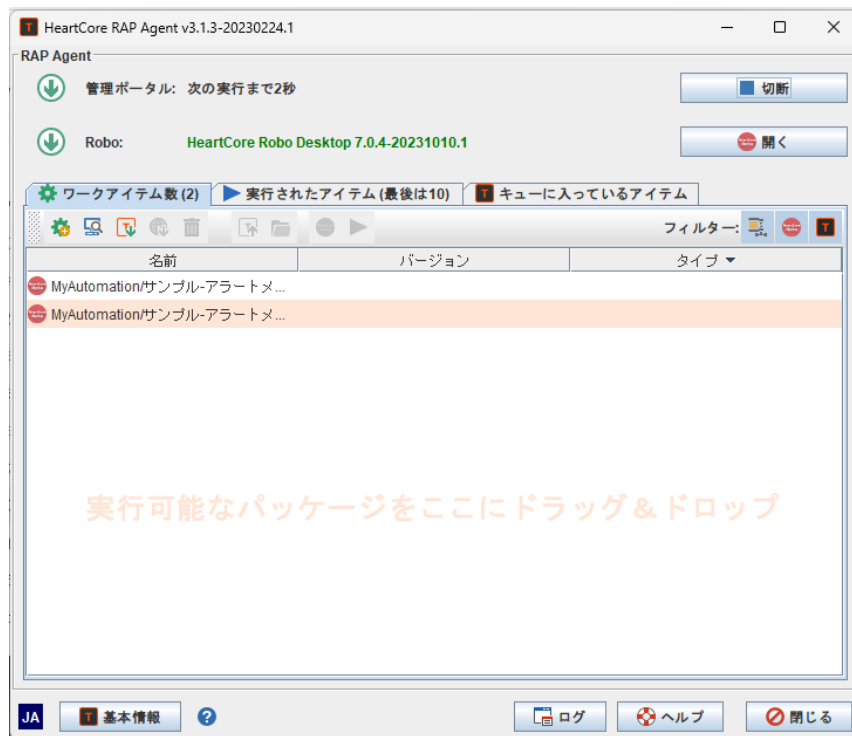
管理ポータルエージェントについて .....	3
1. 概要 .....	3
2. 自動化の管理 .....	4
3. 管理ポータルサーバへの接続 .....	5
エージェントの入手とインストールについて .....	6
エージェントの入手 .....	6
エージェントのインストール .....	7
管理ポータルエージェントの起動 .....	8
エージェントのセットアップ .....	9
1. 管理ポータルの構成 .....	9
2. HeartCore Robo の構成 .....	11
エージェントの状態表示 .....	11

管理ポータルサイトについて .....	14
管理者ユーザーについて .....	15
グループテーブル .....	15
ユーザーテーブル .....	15
Config table（構成テーブル） .....	17
ログ .....	18
「ホーム」 ページ .....	19
「ダッシュボード」 ページ .....	20
ページ構成 .....	21
「キュー」 ページ .....	22
「プロセス」 ページ .....	23
プロセスエディタ .....	23
プロセスエディタメニュー .....	23
選択パネル .....	24
メインキャンバス .....	25
ノードの接続 .....	26
トランジション .....	27
「ワークアイテム」 ページ .....	29
「実行結果ホーム」 ページ .....	30
「トリガー」 ページ .....	31
「エージェント」 ページ .....	33
日付ピッカー .....	33

# 管理ポータルエージェントについて

## 1. 概要

管理ポータルエージェントは、HeartCore Robo の開発元が配布するスタンドアロンで動作する Java アプリケーションです。クロスプラットフォームで、Oracle Java 8 以上で動作するため、主要な OS 上で動作します。

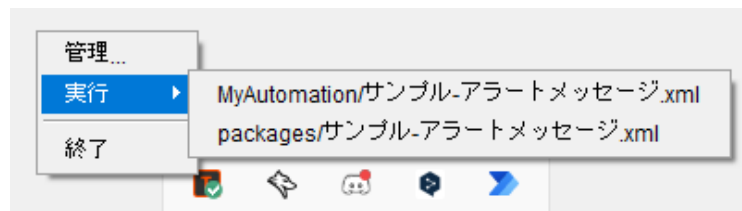


エージェントには 2 つの機能があります。

- 自動化管理
- 管理ポータルサーバ接続

## 2. 自動化の管理

エージェントは、HeartCore Robo で開発したロボット、管理ポータルからダウンロードしたロボット、またはロボット実行可能パッケージなどの他のチャネル経由で受信したロボットを効率的に管理できます。また、管理ポータルに接続しないで使用することもできます。エージェントはシステムトレイアイコンに最小化でき、コンテキストメニューから即座に管理ポータルやロボットへアクセスし実行できます。



エージェントには、ロボット開発者のために利用できる多くの機能を装備しています：

- HeartCore Robo がインストールされていない場合は、エージェントがインストールを支援します。
- HeartCore Robo がマシンにインストールされている場合、最近開発されたローカル PC にあるロボット (作業項目と実行可能パッケージ) をすべて検索しリストします。
- エージェントは、受信または作成したオートメーション用のストレージ (フォルダ) を維持します。その後、手動で実行したり、HeartCore Robo がインストールされている場合は自動化コードを編集したりすることもできます。
- 最近実行された自動化の結果を表示できます。

### 3. 管理ポータルサーバへの接続

管理ポータルは、プロセスの一部として定義されたタスクの実行をエージェントに委任します。「エージェント」は、HeartCore Robo 管理ポータルのエージェントアプリケーションを実行するワークステーションまたはサーバシステムです。

接続中、エージェントは 管理ポータルジョブキューのポーリングを続けます。適切なタスクがある場合は、ダウンロードされて実行され、結果が 管理ポータル に報告されます。

2.のロボット開発に有用な機能に加え、次の内容も実行できます。

- 管理ポータルで使用可能なワークアイテムをリストし、必要に応じてダウンロードできます。タイプに応じて、手動で実行したり自動化コードを編集したりすることもできます。
- ワークアイテムを管理ポータル にアップロードして、プロセス内に含めることができるようにすることができます。
- エージェントの管理ポータルジョブ キューを表示できます。

## エージェントの入手とインストールについて

### エージェントの入手

エージェント ソフトウェアは、HeartCore Robo のアップデート & アップグレード機能を通じて、または以下表内のダウンロードリンクからそれぞれの OS バージョンをダウンロードできます。

ダウンロードリンク	説明
HeartCore Robo  管理ポータルエージェント  3.1.3  <a href="https://downloads.t-plan.com/releases/hcrobo/rapagent/heartcore-rap-agent.zip">https://downloads.t-plan.com/releases/hcrobo/rapagent/heartcore-rap-agent.zip</a>	Java Standard Edition (SE) 8 以降を搭載したあらゆるシステムで動作するクロスプラットフォーム ZIP リリース。 <ul style="list-style-type: none"><li>● エージェントを開始するには、ファイルをハードドライブに解凍し、フォルダ内の <b>agent.bat</b>(MS Windows)、または <b>./agent.sh</b>(Mac OS、Linux/Unix) スクリプトを実行します。</li><li>● システムトレイで最小化されたエージェントを起動するには、<b>agent-systray.bat</b>(MS Windows) または <b>./agent.sh -n --tray</b>(Mac OS、Linux/Unix)を使用します。</li></ul>
Windows 64 ビット用  HeartCore Robo  管理ポータルエージェント  3.1.3  <a href="https://downloads.t-plan.com/releases/hcrobo/rapagent/heartcore-rap-agent-win.zip">https://downloads.t-plan.com/releases/hcrobo/rapagent/heartcore-rap-agent-win.zip</a>	Windows 64 ビット用の MSI インストーラ。これには独自の Java SE インスタンスが含まれています。 <ul style="list-style-type: none"><li>● エージェントを開始するには、Windows メニューで T-Plan RAP Agent を探します。</li><li>● システムトレイで最小化されたエージェントを起動するには、T-Plan RAP Agent Systray を探します。</li></ul>

Apple M1 MacOS 用  HeartCore Robo  管理ポータルエージェント  3.1.3  <a href="https://downloads.t-plan.com/releases/hcrobo/rapagent/heartcore-rap-agent-mac-m1.zip">https://downloads.t-plan.com/releases/hcrobo/rapagent/heartcore-rap-agent-mac-m1.zip</a>	M1 チップを搭載した最新 Apple Mac に適した Mac アプリケーション形式のエージェント。これには独自の Java SE インスタンスが含まれています。  ソフトウェアをインストールするには、DMG ドライブをマウントし、エージェントアプリケーションを [アプリケーション] にドラッグします。エージェントを起動するには、アプリケーションメニューから起動します。
Intel 搭載 MacOS 用  HeartCore Robo  管理ポータルエージェント  3.1.3  <a href="https://downloads.t-plan.com/releases/hcrobo/rapagent/heartcore-rap-agent-mac-intel.zip">https://downloads.t-plan.com/releases/hcrobo/rapagent/heartcore-rap-agent-mac-intel.zip</a>	Intel CPU で実行される古い Mac の代替手段。

## エージェントのインストール

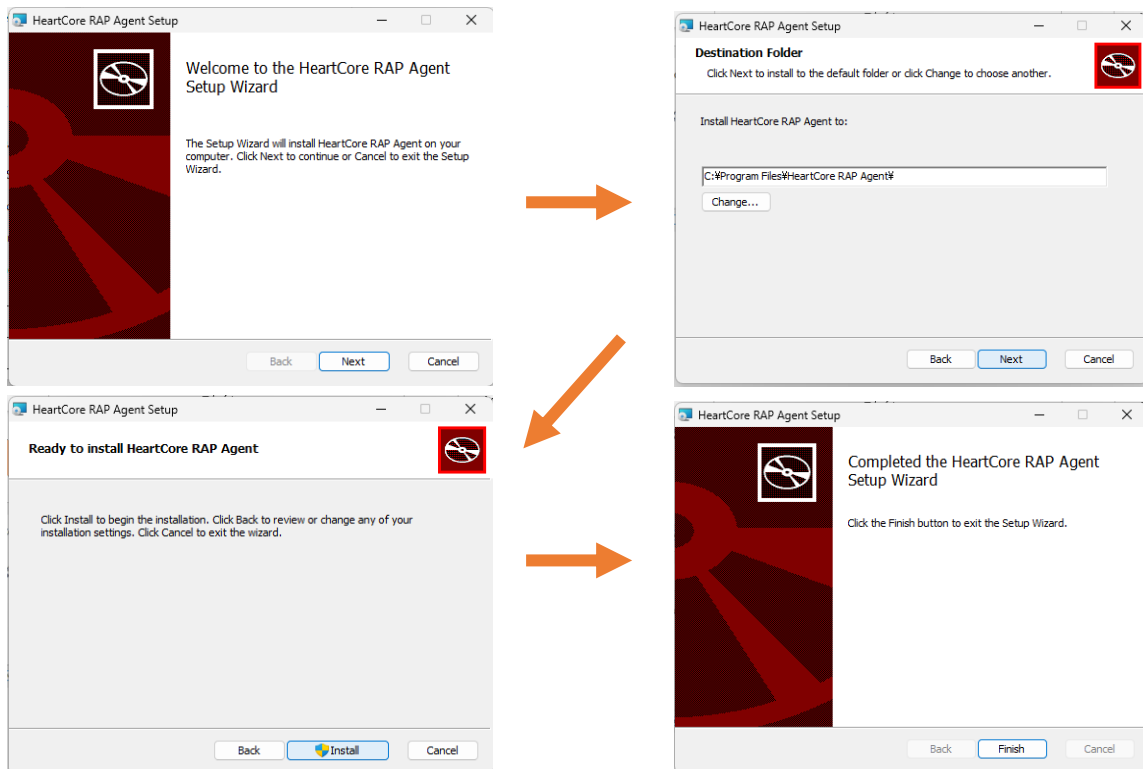
上記表の説明に従ってインストールを行ってください。以下は Windows のインストール手順を参考として掲載しています。



ダウンロードした Zip ファイルを解凍して、エクスプローラを起動して上記ファイルを起動します。

ウインドウの表記に従って、インストール作業を進めます。

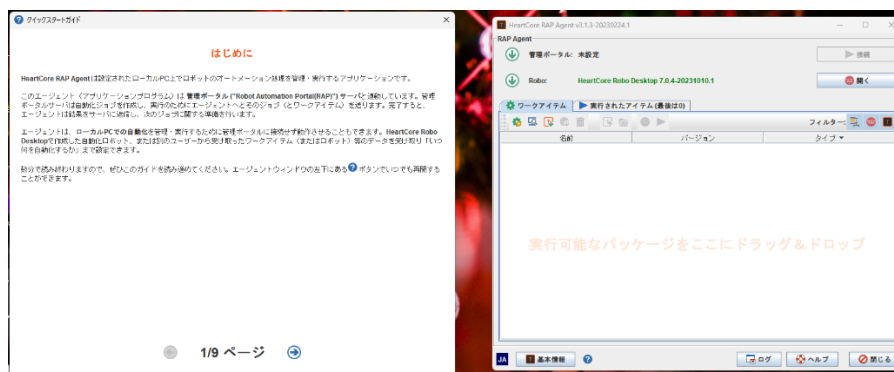




最後に「Finish」ボタンを押してインストールを完了します。

## 管理ポータルエージェントの起動

Windows の場合は、HeartCore RAP Agent とシステムトレイ常駐用の HeartCore RAP Agent Systray のショートカットアイコンがデスクトップ上に作成されますので、HeartCore RAP Agent の方をダブルクリックなどで起動すると以下の画面が表示されます。





左側がクイックスタートガイドになっていますので、設定などを行う前に必ず読んでおいてください。

## エージェントのセットアップ

### 1. 管理ポータルの構成

最初のステップとして、管理ポータルシステムのアドレスと認証情報を入力します。管理ポータルが HeartCore Robo のライセンス URL を提供する場合がありますので、その設定を Robo のインストール前に行うことをお勧めします。管理ポータルを使わずにエージェントを使用する場合は、このステップを省略できます。

管理ポータルステータスフィールド上左側の  ボタンをクリックします。管理ポータルのパラメータが表示されます。管理ポータル URL (https://ドメイン名/rap)、ユーザー、パスワードそれぞれのフィールドに情報を入力します。これらをお持ちでない場合は、管理ポータルの管理者にお問い合わせください。

Web プロキシ経由の接続を有効にするには、 [プロキシ..] ボタンを選択し、詳細を入力します。

※ここで入力したユーザーとパスワードは、管理ポータルの「管理者」ページで「エージェント」タイプのユーザーアカウントを先に設定する必要があります。



HeartCore RAP Agent v3.1.3-20230224.1

RAP Agent

 管理ポータル: 接続されていません ▶ 接続

RAP アドレス:  ⚙️ プロキシ...

ユーザ:

パスワード:

エージェント名:  📄

実行時間:  秒

☐ 監視モード (実行しない)

☐ 実行時にエージェントを最小化する

パラメータはローカルにある <userHome>/hcrobo/rapagent.cfg に保存されパスワードは暗号化されます。


※接続を確認するには、まず "監視モード (実行しない)" オプションのチェックボックスがオンになっていることを確認してください。これは管理ポータルが Robo の設定とインストールを完了する前にジョブを出さないようにするためです。次に ▶ 接続 ボタンを選択します。エージェントが管理ポータルに接続し、ジョブキューのポーリングを開始するはずです。

## オプションのパラメータ

- **エージェント名** - 管理ポータル内のエージェントの参照名を設定します。これを行うには管理ポータルに接続している必要があります。
- **ポーリング時間** - エージェントが利用可能なジョブについて管理ポータルキューをチェックする頻度を定義します。
- **監視モード（実行しない）** - エージェントにジョブを受け付けないように指示します。このモードは、キューを監視したい場合や、ワークアイテムのインポートやエクスポートを計画している場合など、接続の確認や開発作業に使用します。
- **実行時にエージェントを最小化する** - 実行が開始される前にエージェントウィンドウが非表示になり、終了後に復元されます。

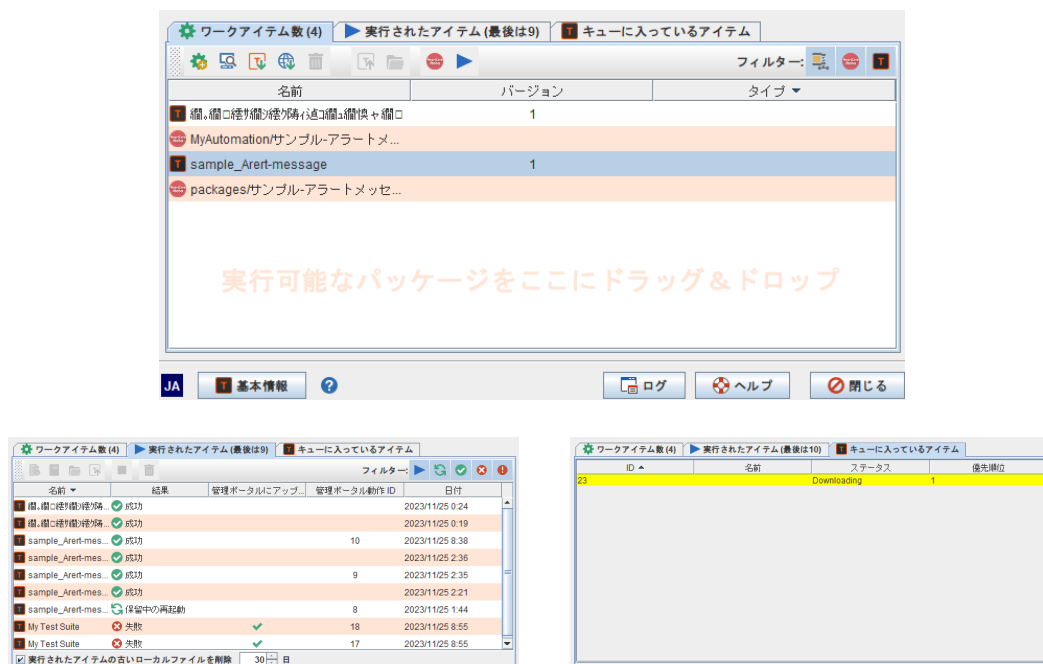
## 2. HeartCore Robo の構成

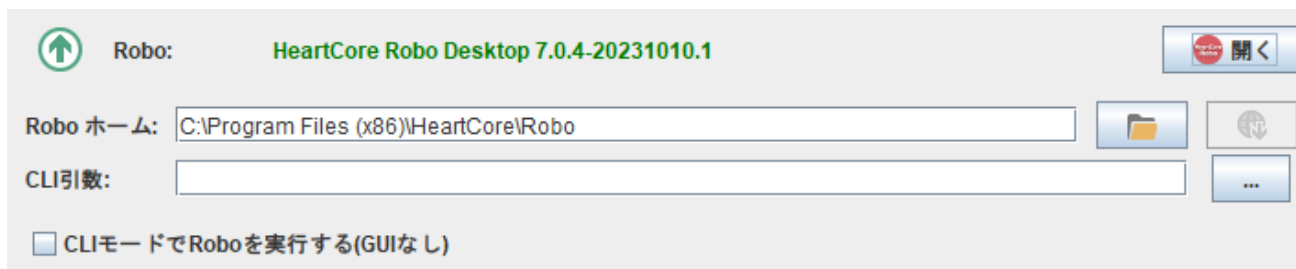
エージェントが管理する実行可能ファイル(ワークアイテム)には2つのタイプがあります：

- 完全な実行可能パッケージには Robo インスタンスが含まれており、「Type (タイプ)」列に  アイコンが表示されます。これらは、エージェントをセットしている PC に HeartCore Robo をインストールする必要はありません。実行可能パッケージの詳細については、Robo の該当ドキュメントを参照してください。
- 軽量の実行可能パッケージと Robo のワークアイテム(\*.xml) を実行するには、HeartCore Robo が PC にインストールされ設定されている必要があります。

### エージェントの状態表示


例えば、以下のビューのパッケージが表示されています。「タイプ」項のアイコンで簡易パッケージやフルパッケージなのかを確認できます。

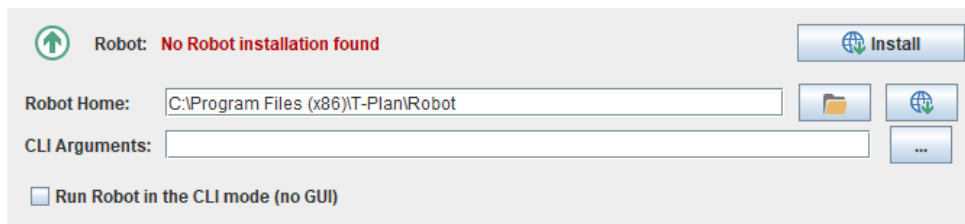




初めてエージェントウィンドウを起動すると、PC のディスク内に HeartCore Robo がインストールされていないかを検索します。もし見つからない場合は、インストールするかどうかを尋ねるメッセージがポップアップ表示されます。エージェントは最新のクロスプラットフォーム Robo のインストールを案内します。エージェントウィンドウに [🌐インストール] ボタンがありますのでそれでインストールするか、またはインストールをスキップすることもできます。インストール後にライセンス契約への同意とライセンスキーURL（またはファイル）のアクティベーションが必要になりますので、必ず一度 HeartCore Robo を起動して手続きを完了しておいてください。

HeartCore Robo を手動でインストールすることもできます。このオプションを使用すると、サポートされているロボット配布パッケージ (クロスプラットフォーム ZIP、Windows インストーラ、または Mac OS アプリケーション) から選択できます。ダウンロードオプションについては、弊社サポートにお問い合わせください。

すでにロボットがインストールされており、エージェントがロボットを見つけられない場合は、手動で構成できます。これを行うには、[ロボット ステータス] フィールドの左側にある  ボタンをクリックして、ロボットパラメータを展開し、そのインストール ディレクトリを設定します。



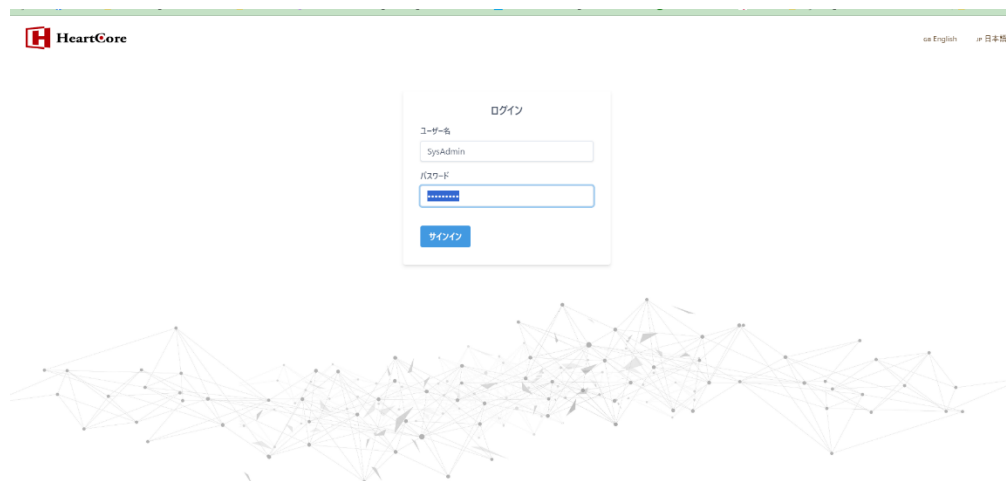
オプションのパラメータ:

- CLI 引数を使うと、ロボットの動作を CLI 引数で変更することができます。
- CLI モード(GUI なし)でロボットを実行すると、ロボットの GUI を表示せずにオートメーションが実行されます。このオプションは `-n/--nodisplay` (Robot CLI 引数) に適用されます。実行可能なパッケージやワークアイテムも独自にこのモードを強制する可能性があることに注意してください。

## 管理ポータルサイトについて

管理ポータルサイトにアクセスして (https://～ドメイン名など～/)、所定のログイン ID とパスワードで管理ポータルサイトにアクセスします。ID とパスワードは管理者から提供された管理ポータル用の ID とパスワードをご利用ください。不明な場合は管理者にお問い合わせください。

初回ログイン時の ID とパスワードは決まっていますが、パスワードに関しては管理者がログイン後に変更しておくことを強く推奨します。



## 管理者ユーザーについて

ユーザーが管理者権限を持っている場合、左側のナビゲーションメニューに「管理者」ページが表示されます。管理者ページでは、ユーザーグループ、ユーザー、アプリの設定というアプリの3つの主要な側面を管理できるだけでなく、サーバログも表示されます。

### グループテーブル

グループテーブルの表示・非表示

グループの追加 [+ グループを追加](#)

グループ名	グループ内容の説明	グループメンバーの状態	グループの権限一覧	グループ削除
Administrators	SysAdmins	メンバー	権限	
Users	All users			

グループ名の編集

メンバーモーダル (members modal) ではグループにユーザーを追加または削除できます。同様に、権限モーダル (permission modal) でグループメンバーがアプリのどの部分にアクセスできるかを設定できます。

### ユーザーテーブル

ユーザーテーブルの表示・非表示

表示名の編集

E-mailアドレスの編集

パスワードの変更

ユーザーの追加 [+ ユーザーを追加する](#)

ユーザーの削除

ライセンスの種類	ユーザー名	表示名	Eメール	のメンバー	パスワードの変更	編集
管理者アイコン	SysAdmin	Administrator	admin@mycompany.com	Administrators Users		
エージェントアイコン	David	David	dsharman@t-plan.com	Users		
shiraishi	shiraishi-agent_sample	shiraishi@heartcore.co.jp	Users			
tamekuniagent	tamekuni	tamekuni+agent@heartcore.co.jp	Users			

ユーザーテーブルでは、ユーザー名、メールアドレス、パスワードの変更、アカウントの削除など、ユーザーの詳細を編集することができます。また、ユーザーを追加しグループに割り当てる、パスワードを設定することもできます。ライセンスは5種類あって、左のライセンスアイコンには**管理者・エージェント・CLI・ダッシュボード・ジェネリックの種別**があります。



管理者 - 管理ポータル管理のためのライセンス。この権限でのみ管理者ページが表示されます

エージェント - クライアント PC で実行、管理ポータルにアクセスできるエージェント用ライセンスです。








CLI - CLI モードで利用するライセンスです。

ダッシュボード - ダッシュボードの確認を行うためのライセンスです。

ジェネリック - 各カテゴリすべてを使うことのできるライセンスです（通常提供しません）。

## Config table（構成テーブル）

構成テーブルには、構成可能な項目の選択とデータベース情報が表示されます。通常、ほとんどのユーザーはサーバのデフォルトに影響を与える必要はありませんが、これらの要素を修正するとアプリの実行に影響を与える可能性があります。ただし、アプリのパラメータはここで変更できます。

— 設定を編集			
アイテム ↑↓	説明 ↑↓	値 ↑↓	
Database minor version	Database minor version	3	Item is not editable
Database major version	Database major version	3	Item is not editable
Default URL of Robot License Server	Specify URL of License Server to be used by Robots; in the form [SERVERURL]?lid=[LICENSEID]		
Execution Log level	Increase log verbosity 0=none to 3=verbose	 1	
Process timeout	Number of seconds a process run can be on the run-queue without update, before timing out. Default=86400s (24 hours)	 86400	
Workitem report path	Directory location (relative to application basedir) for uploaded workitem reports. Default="reports"		
Report upload event	Specifies the Robot event that triggers a report upload.	 OnFail	
Workitem file store	Directory location (relative to application basedir) for uploaded workitem payloads. Default="wistore"	 wistore	
Job timeout	Number of seconds a workitem job can be on the job-queue without update, before timing out. Default=86400s (24 hours)	 86400	

※ 管理者の方は、販売元から提供されたライセンス URL をロボットに適用する場合は

「Default URL of Robot License Server」の項目に必ずライセンス URL 登録をお願いします。

## ログ

ログには、ログの最終日に関するサーバログが表示されます。つまり、サーバのローカルタイムゾーンの 0000 から現在のローカルタイムゾーンまでが表示されます。

— ログ			
Application ↑↓	Time	Level ↑↓	Message ↑↓
WFE	20:59:10	Info	Worker checking DB for work...
WFE	20:59:10	Info	Worker running at: 11/24/2023 11:59:10 +00:00
WFE	20:58:59	Info	Worker running at: 11/24/2023 11:58:59 +00:00
WFE	20:58:59	Info	Worker checking DB for work...
WFE	20:58:48	Info	Worker running at: 11/24/2023 11:58:48 +00:00
WFE	20:58:48	Info	Worker checking DB for work...
WFE	20:58:37	Info	Worker checking DB for work...
WFE	20:58:37	Info	Worker running at: 11/24/2023 11:58:37 +00:00
WFE	20:58:26	Info	Worker running at: 11/24/2023 11:58:26 +00:00
WFE	20:58:26	Info	Worker checking DB for work...
表示中 1 に 10 の 13298 log entries << < 1 2 3 4 5 > >> 10 ▼			

## 「ホーム」 ページ



管理ポータル Home は、ユーザーがログイン後のデフォルトページです。管理ポータル Home がすべてのユーザーのデフォルトのランディングページとして機能することが示されています。これは、管理ポータルシステム内のすべての主要な要素がセットアップされ、存在していることを確認するための初期システムチェックを提供します。

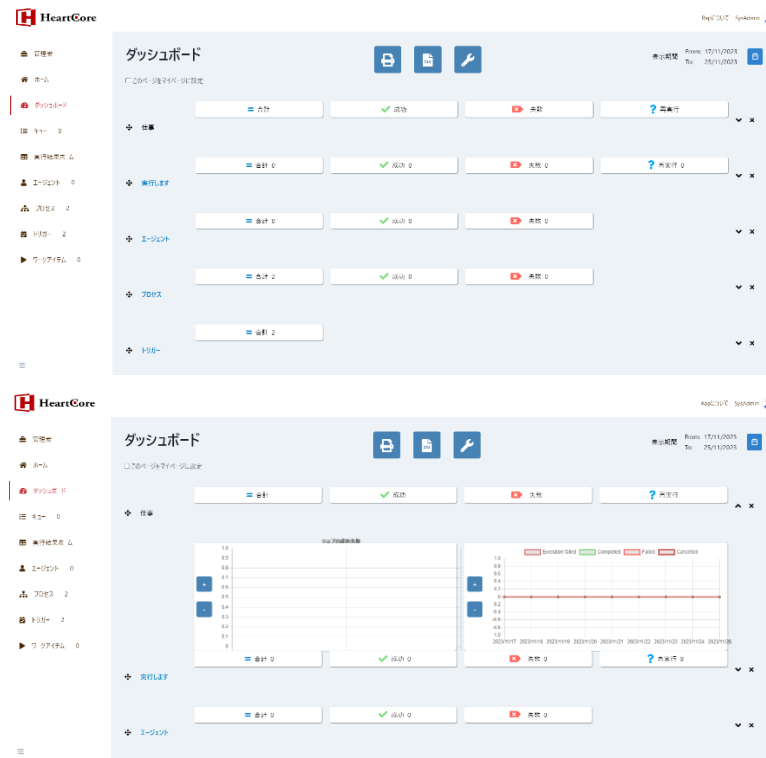
アプリが正しくセットアップされていない場合、Home ページには不足しているものに関する情報が表示されます。オレンジ色のバーのアニメーションは、セットアップチェックがどこまで進んだかを示しています。

Home ページには、アプリの側面に関する概要テキストが表示されます。ここからは、アプリのガイド付きツアー（インタラクティブなデモンストレーションと各ページの機能の概要）を示すリンクと、アプリを説明する役立つチュートリアルである YouTube の「入門」ビデオへのリンクが表示されます。

また、エージェント、ワークアイテム、プロセス、および実行結果ページへのリンクと、このドキュメントにリンクしている各々の情報もあります。

アプリに慣れてくると、Home ページはあまり役に立たなくなるかもしれません。ダッシュボードのページに移動し、左上の「これを Home ページにする」というラベルの付いたボックスにチェックを入れることで、最初に表示されるページとしてダッシュボードを設定できるようになります。

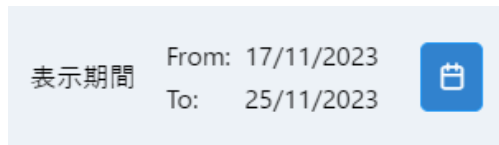
# 「ダッシュボード」 ページ



「ダッシュボード」ページでは、過去の実行結果を基にした数値や統計データを提供することで、管理ポータルがコントロールしているロボット実行状態の分析を可能にしています。様々なカードからなる各種情報のドリルスルー機能によって必要な情報を素早く簡単に確認することができます。

## ページ構成

右上のカレンダー ウィジェットを使用して、希望の開始日と終了日を選択すると、ダッシュボードのコンテンツを特定の日付範囲でフィルタリングできます。詳細については、「日付ピッカー」の項を参照してください。



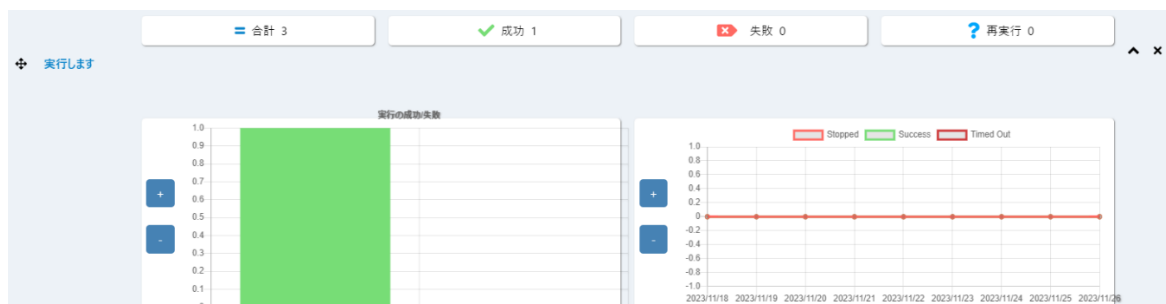
### マスターフィルタ

ここで選択したフィルタオプションはアプリ全体に適用され、すべての結果と詳細ページに影響します。

### 隠されたデータ？

結果詳細ページで期待したデータが表示されない時はマスターの日付フィルタ設定を調整してみてください。

各状態の表示内容や非表示を右側の ^ x アイコンで変更可能です。



ダッシュボードの上にある印刷アイコンを使用して PDF に保存できます。



ダッシュボードの上にある CSV アイコンでデータをエクスポートできます。



ダッシュボードの表示順は上の設定アイコンを使用して変更できます。



## 「キュー」 ページ

キューに入っているジョブ						
<input type="checkbox"/> 選択したアイテムをキャンセルする				<input type="button" value="更新"/>		
<input type="checkbox"/>	キューID	処理する	キューに追加された日時	状態	最終更新日時	タイムアウト日時
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 16	白石 格	Nov 25, 2023, 8:46:54 AM	保留中	Nov 25, 2023, 8:46:54 AM	Nov 26, 2023, 8:46:54 AM

「キュー」 ページには、実行が開始されたすべてのプロセスが一覧表示されます。キューに登録されたアイテムは、キューイング、実行中、完了、完了など、様々なステータスを通過する際にログデータが記録されます。

右端のオプションを使用して、キューに入れられたテーブル内の任意の項目をキャンセルできます。これにより、終了するための呼び出しが送信され、**Aborted** ステータスが返されます。実行が完了すると、その際の実出力データ一式が結果ページからアクセスできるようになります。

## 「プロセス」 ページ

ここですべてのプロセスを作成、表示、編集します。

新しいプロセスの作成は「作成」ボタンを使用して簡単に行うことができます。新しいプロセスの名前を入力すると、プロセスエディタが表示され実行フローやルールなどを定義できます。

機能詳細については「プロセスエディタ」セクションを参照してください。

表内で、次のように必要なオプションを選択できます。

## プロセスエディタ

プロセスエディタを使用すると、ドラッグ&ドロップで実行フローを設定できます。プロセス設計は管理ポータル内の作業項目の存在に依存します。利用可能な作業項目がない場合の利用方法の詳細については、ここを参照してください。

### プロセスエディタメニュー



## 選択パネル

選択パネルウィンドウが画面の左側に表示され、プロセス内で使用可能な（アーカイブされていない）すべてのワークアイテムが表示されます。ワークアイテムをプロセスに追加するには、キャンバス上にドラッグし、コネクタノードを使用して必要な場所に接続します。これについては後述します。

表示されたワークアイテムに加えて、選択パネルには、選択オプションと共に使用可能な終了ノードも表示されます。



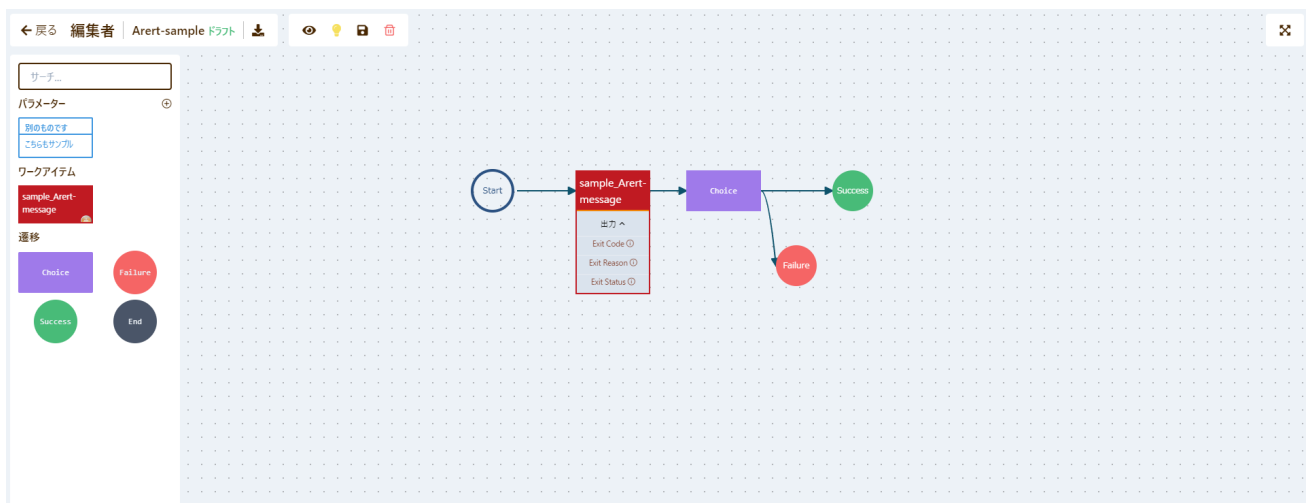
- ① 検索パネル - すべてのパラメータや作業項目などを検索します。
- ② パラメータの追加 - プロセス内に含める新しいパラメータを作成します。
- ③ プロセスパラメータ - 既存パラメータです。これらをキャンバスにドラッグしワークアイテム入力への設定を作成します。
- ④ ワークアイテム - プロセスに設定可能なワークアイテム。これらをキャンバスにドラッグしコネクタノードを使用してフロー/設定を作成します。

## メインキャンバス

ワークアイテムをメインキャンバスにドラッグすると、それぞれをハンドルを使い接続することができるようになります。プロセスの流れは、"シンプルなフロー"画面を使って定義することができます。

さらに、プロセスパラメータをキャンバス上にドラッグし、希望する入力に結びつけることで、デフォルト値を設定したい値で上書きすることもできます。

ワークアイテムのパラメータを直接編集する場合、フィールドからクリックを離すと、変更を保存するよう促されます。



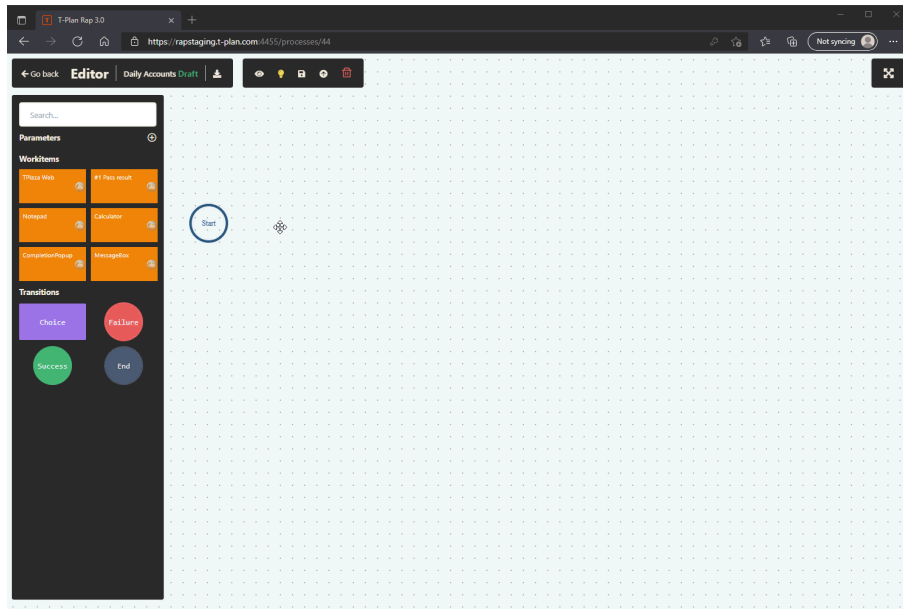
### 変更内容の保存

変更を加えた後は、必ずプロセスエディタのメニューを使用してプロセスを保存してください。保存せずにエディタから「戻る」を選択すると、保存されていない変更が失われる可能性があります。

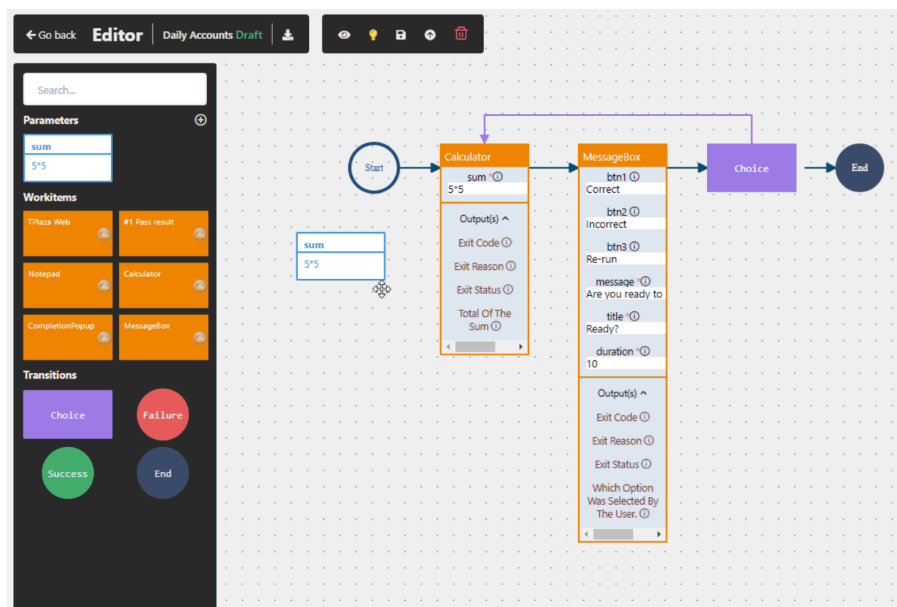
更新を保存した後、プロセスを再度実行できるようにするには、プロセスを再公開する必要があります。再公開すると、プロセスのバージョン番号も上がります。

## ノードの接続

キャンバス上でアイテムを選択するとハンドル（矢印）が有効になり、選択したアイテムを設定した各ワークフローに接続することができます。左向きのハンドルは利用可能な入力を表し、右向きのハンドルは利用可能な出力を表します。



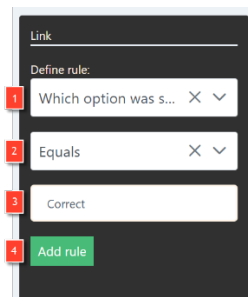
入出力パラメータ・ノードを接続する前に、まずワークアイテム自体を下流のワークアイテムに接続する必要があります。接続しないとエラーが表示されます。



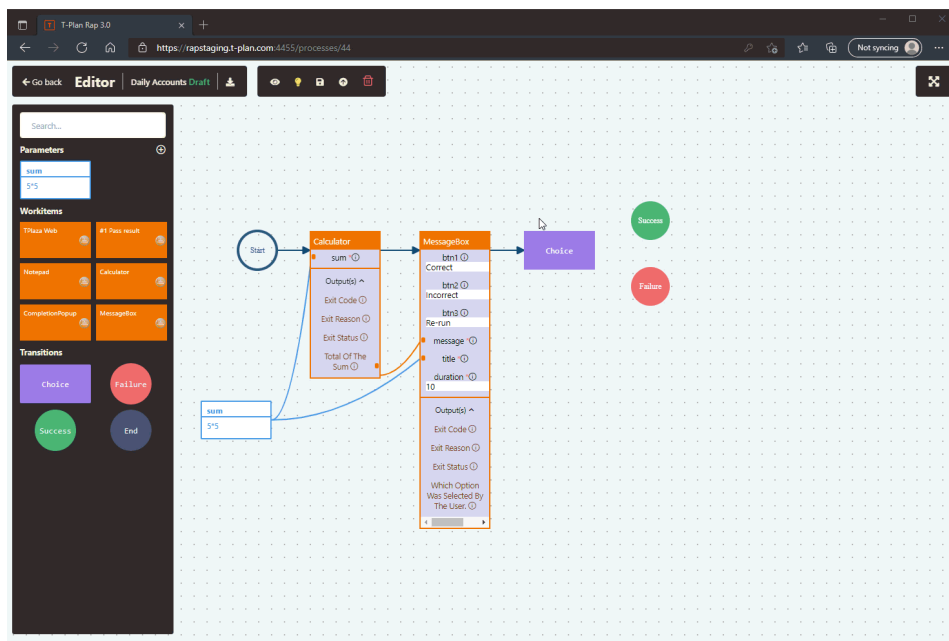
## トランジション

### 選択ノード

プロセス全体を通して、出力または上流のアクティビティに基づいて実行フローを分岐させる「選択」ノードを含めることができます。選択ノードは、他のノードと同じようにプロセスに追加します。次に「決定」を定義するには、コネクタブランチを選択して、右側の選択ルールパネルを表示します。



1. ルールのベースとなるアップストリーム変数を選択してください
2. ルールの演算子を設定します
3. 問い合わせたい値を入力してください
4. 追加してルールを確認し、保存します

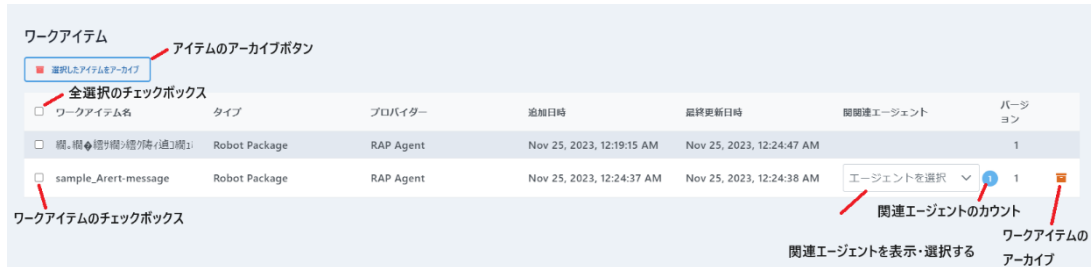


## プロセスの公開

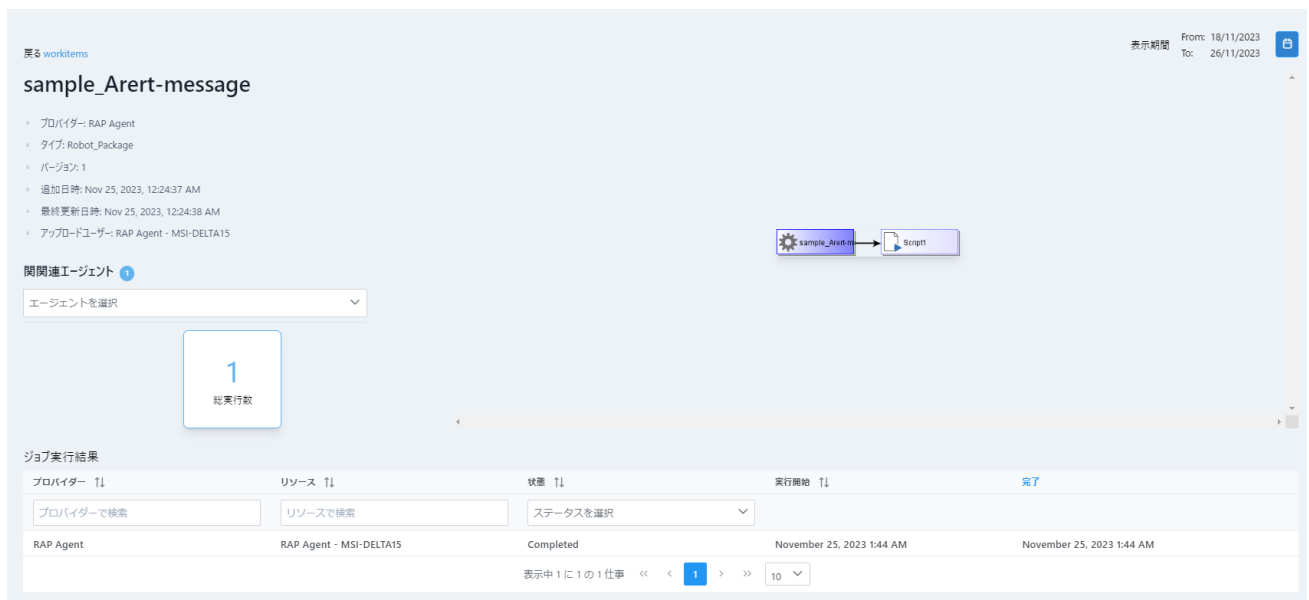
プロセスは公開されるまで「ドラフト」状態のままです。プロセスは、「公開」状態になった場合のみ実行できます。プロセスを編集して再保存すると、再公開されるまではドラフト状態に戻ります。そうすることで、プロセステーブルに表示されるプロセスのバージョン番号も上がります。

## 「ワークアイテム」 ページ

ワークアイテムは、プロセスの構成要素となる作業内容をパッケージ化したものです。



ワークアイテムのテーブルにはワークアイテムのトップレベル情報が表示されます。より詳細な情報を知りたい場合は、ワークアイテム名をクリックすると、以下のような画面が表示されます：



ここから、ワークアイテムの詳細（バージョン番号、詳細、関連エージェント、実行回数、ワークアイテムの過去の実行結果の表）を見ることができます。

## 「実行結果ホーム」 ページ

完了したプロセスとその詳細（ステータス、プロセス名、日付、実行者、実行 ID）を表示します。詳細は以下  
をご参照ください。

実行結果

選択したアイテムを再実行

アイテムの再実行ボタン

表示期間

From: 18/11/2023  
To: 26/11/2023

表示期間の変更カレンダー

<input type="checkbox"/>	状態 ↑↓	プロセス ↑↓	キューに追加された日時 ↑↓	実行日時	実行ユーザー ↑↓	実行ID ↑↓
<input type="checkbox"/>	全選択	ステータスを選択 ▼	プロセス名で検索			
<input type="checkbox"/>	失敗	Alert-sample	Nov 25, 2023, 1:43:31 AM	Nov 25, 2023, 1:43:42 AM	SysAdmin	8
<input type="checkbox"/>	成功	Process1	Nov 25, 2023, 1:03:07 AM	Nov 25, 2023, 1:03:17 AM	SysAdmin	7

選択

表示中 1 に 2 の 2 実行します << < 1 > >> 10 ▼

表示された日付を変更するには、「日付ピッカー」の項をご参照ください。

## 「トリガー」 ページ

「トリガー」 ページでは、プロセスのトリガーを作成、編集、変更することができます。トリガーとはプロセスを実行するための合図で、毎週、毎日、毎時、または任意の間隔でプロセスを実行するように設定できます。

項目は名前とプロセスで検索可能です。行は任意の列でソートできます。

トリガー

新規トリガーの作成ボタン

トリガーデータ（リスト）の更新

選択したトリガーの削除ボタン

選択トリガー全体のON・OFF

表示トリガーの全選択

選択したトリガーを無効/有効にする

<input type="checkbox"/>	ワークアイテム名 ↑↓	プロセス ↑↓	再実行日時 ↑↓	前回実行日時 ↑↓	終了予定 ↑↓	無効/有効 ↑↓
<input type="checkbox"/>	名前で検索	プロセスで検索				
<input type="checkbox"/>	1分毎にエクセル作成	Process1	September 1, 2024 12:00 AM	October 1, 2023 12:00 AM		<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	1分毎にエクセル作成	Process1	September 1, 2024 12:00 AM	October 1, 2023 12:00 AM		<input checked="" type="checkbox"/>

トリガー内容の編集

トリガーのON・OFF

トリガーの削除

トリガーを作成するには、「トリガーを作成」をクリックします。これにより次のダイアログが表示されます。

新規トリガーを作成

ワークアイテム名:

毎日Excelを作成

説明:

毎日 to 新規Excelを作成する

開始日時:

2023/12/01 00:55

ターゲットプロセス（最新バージョン）:

Process1

タイムゾーン:

(UTC -09:00) Etc/GMT+9

CRONの作成

自動実行: 毎日 すべて: 03 日々で 12 時間 15 分に開始

☐ End after n occurrences ☐ End after date

☐ 有効 ☒ 無効

新規トリガーを作成

ここでは、トリガーにわかりやすい名前を付けたり、役立つ説明テキストを追加したり、トリガーを構成したりできます。



00	55
01	56
02	57
03	58
04	59
05	00
06	01

トリガーを開始する日／月／年／時間を設定できます。

ターゲットプロセス（最新バージョン）：

タイムゾーン：

CRONの作成

Process1 ▼  
Process1

トリガーされるプロセスを定義します。これにより、そのプロセスの最新バージョンが開始されるようになります。プロセスの詳細については、プロセス・ページまたはプロセスエディタの項を参照してください。

CRONの作成

自動実行: 毎日 ▼ すべて: 03 ▼ 日々 で 12 ▼ 時間 15 ▼ 分に開始

☐ End after n occurrences
☐ End after date

☐ 有効
☒ 無効

繰り返しの項目でプロセスをいつ実行するかを設定できます。上の画像は毎週のオプションを示しています。

トリガーは、「End after n occurrences」で特定の日付に終了するか、「End after date」で一定回数を実行した後に終了するように設定できます。

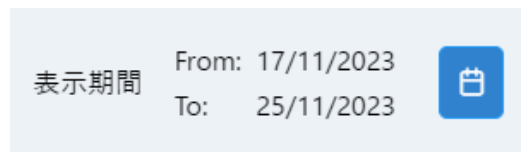
## 「エージェント」 ページ

エージェントは、ワークアイテムに実行コンテキストを提供するという点で非常に重要です。エージェントの機能と使用方法の詳細については、次のトピックを参照してください：管理ポータルエージェント

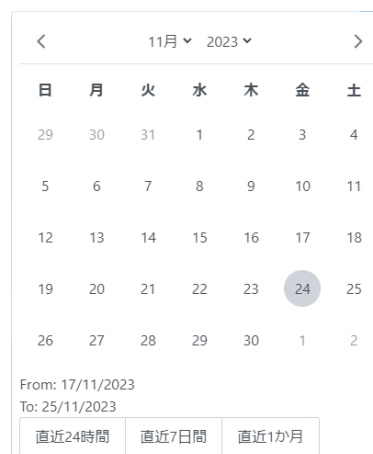


## 日付ピッカー

日付ピッカーは、「実行結果」ページと「ダッシュボード」ページに表示されます。日付ピッカーの変更で、これらのページに現在表示されている日付が変更・再設定されます。



青いカレンダーアイコンをクリックすると、以下のダイアログが表示されます：



ここから特定の日付を設定できます。2つの日付をクリックすると、期間が設定されます。また、「過去 24 時間」、「過去 7 日間」、「過去 30 日間」をクリックすると、その期間を設定できます。